

日本で 「働く壁」の 乗り越え方。



関西大学堺キャンパスのアドベンチャー施設にて研修参加者が高所に挑戦するアクティビティの様子。
このアクティビティを通して研修参加者が何を学んだのか？詳細は次のページにて。

言葉・文化・価値観の違う日本で働くベトナム人の成長を加速するために、PREXは様々な角度から研修の価値を高めてきました。

ベトナム人リーダー育成研修は今年で12回目を迎えました。そんな中、今年、過去最高の研修参加者数を記録しました。新しい顧客、そしてリピーター顧客を着々と増やしているこの研修の魅力を、参加者・参加者の所属企業・研修の企画担当者からそれぞれの視点で話してもらいました。

「百聞は一見に如かず」は、世界共通。

株式会社みずほカーテンメンテナンスへ訪問の様子

テーマは、経営理念・カイゼン・組織管理・人材育成、 最終日には学びを踏まえたアクションプラン(行動計画)を発表

本研修は、日本企業で働くベトナム人社員を対象に、将来、企業の中核を担うリーダーを育成することを目的に、PREXが実施している独自のプログラムです。経営理念・カイゼン・組織管理・人材育成などをテーマに、講義・企業訪問・演習を通じて学びを深め、最終日には学びを踏まえたアクションプラン(行動計画)を発表いただきました。

今年度の研修には、3つの特徴がありました。

1. 参加者増による活発な学び合い

例年より参加者が増え、研修全体が一層活気にあふれました。ワークショップでは意見交換が盛んに行われ、「他社の取り組みから刺激を受けた」、「仲間が増えて心強い」といった声も多く聞かれました。人数の増加が、学び合いの場の価値をさらに高める結果となりました。

2. 懇親会を通じた企業ネットワークの拡大

研修最終日の懇親会には、参加者を送り出していただいた全9社から、社長や上司の方々が参加され、企業間の交流の場として大いに盛り上がりました。「外国人を雇用している同じ境遇の他社の取り組みを知る良い機会になった」といった声もあり、研修の学びに加えて企業同士のつながりが広がったことも、大きな成果となりました。

3. インターユース堺(IYS)との連携による体験型プログラム

今年度は堺市の「インターユース堺(IYS)」と連携し、関西大学堺キャンパスのアドベンチャー施設で体験型のチームビルディング活動を実施しました。IYSは国際感覚と人権意識を備えた青年育成を目的に活動しており、今回のコラボにより、チームワークを座学だけでなく実際に身体を使って体感しながら学ぶ機会となりました。

表紙の写真は、参加者が高所に挑戦するアクティビティの様子です。登る人は自らの限界に挑戦し、命綱を持つ人はその安全を守るという責任を担っています。一見すると登る人だけがチャレンジしているように見えますが、命綱を持つ側も「人の命を預かる」という大きな責任を背負っており、互いに信頼し合うことが不可欠です。互いの信頼がなければ成り立たないこの活動を通じて、「信頼」「責任」「協力」といった、仕事においても不可欠なチームワークを実感することができました。参加者はそれぞれの役割を果たしながら、共通の目標に向かって協力することの大切さを学びました。

今後、参加者は作成したアクションプランを各企業で実践し、12月のフォローアップ研修で成果を共有いただきます。研修で得た学びが職場でどのように活かされるのか、成果を聞けることを楽しみにしています。また、今年度からは新たに『ベトナム人社員向け基礎研修』(動画配信)も開始しました。本研修とは対象者が異なり、勤務年数2～3年の従業員を対象に「基礎」を中心に学んでいただける内容となっています。

(国際交流部 佐賀)

ぜひこちらもご覧ください。→



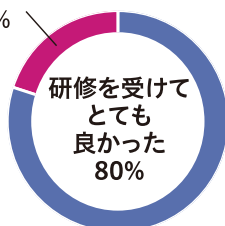


ベトナムから来たのは自分だけじゃない。

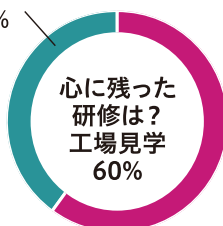
グループワークで意見交換の様子

研修の印象や成長の実感を参加者に聞いてみた。

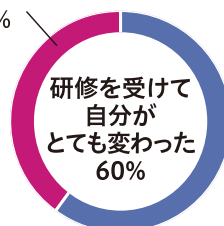
良かった
20%



グループワーク
40%



少し変わった
40%



●参加者の声

「この研修は、仕事への向き合い方を見つめ直す素晴らしい機会でした。学んだことを活かし、今後の業務改善に繋がりたいです」「私が学んだことは会社の成長に役立つと思います」

今後の目標は？

- 日本語能力を上げたい
- 日本人とよりよいコミュニケーションをとりたい
- チームリーダーとして頑張りたい
- 新しい仕事に挑戦したい
- 後輩に教えたい



「ベトナム人リーダー育成研修」は日本企業のベトナム人社員で、リーダーとして期待している社員、今よりもさらに成長してほしい社員を対象とする研修ですが、参加者の皆さんが普段担当している業務は毎年様々です。

今年度の参加者は、普段の担当業務が製造や加工といった現場作業をされている方が大半でしたが、品質管理や営業担当の方にもご参加いただきました。

研修の内容について参加者の所属企業担当者に聞いてみた。

研修で特に良いと思うコンテンツは何ですか？（選択）（複数選択可）

講義	2	最終日のアクションプラン発表には企業の上司の方々にもご参加いただき、「研修を受講し始めてからは自分から提案するようになった」などの声が寄せられました。また、講師からも「学んだことを自分なりの言葉で表現されていて、とてもよく理解されていると思った」との感想をいただき、参加者の学びを実感できる場となりました。
工場見学	5	
グループワーク	5	
受講者同士の交流	5	



やりがいは研修参加者の輝く姿。

Q1. 本研修 の魅力は？

PREXの荒木です。本研修には、これまでの日本企業での勤務経験や、経営コンサルティングに基づいた豊富な知識による講義や、講義で学んだ知識を実践している企業を訪問して生の声を聞ける機会があること、そして研修参加者同士、所属企業同士での交流など、多くの魅力があります。(荒木)

PREXの佐賀です。**この研修の魅力の1つ目は、日本企業の考え方を学ぶことです。**

日本語研修やマナー研修とは異なり、「日本企業で働くとはどういうことか」という本質に迫ります。

2つ目は、実践につながるアクションプラン(行動計画)の作成です。

研修の最終日には、参加者が自らの学びをもとにアクションプランを作成します。

3つ目は、参加者同士のつながりです。

同じような立場で働く他社の参加者と出会えることは、参加者にとって大きな刺激となります。(佐賀)

Q2. 研修中の 雰囲気は？

研修参加者は、主に製造業での製造現場で働く方々が多く、すぐに打ちとけられるほど気さくでありながらも、はっきり意見を言い合える関係作りができる方が多い印象です。(荒木)

参加者は、企業や組織から大きな期待を寄せられている方々ばかりで、非常に真面目で一生懸命に取り組む姿が印象的です。(佐賀)

Q3. やりがいを 感じるのは？

研修受講後の方にお会いした時に活き活きと仕事をされている様子を見られた時や、所属企業の方に「次もお願いしたい」とおっしゃっていただけた時が、やってきて良かったと思う瞬間です。(荒木)

参加者が、研修の学びをもとに作成した「アクションプラン」を発表してくれた時です。それぞれの職場の課題に向かい、具体的な行動に落とし込もうとする姿勢に、私たちも大きな刺激を受けています。(佐賀)

Q4. 今後の 目標は？

今後もベトナム人社員の方々から本音の部分をもより深く聞き出し、所属企業が求めていることとを上手くマッチングできるような研修になるよう改善し続けていくことと、今まで多くの企業に参加いただいたので、皆様の外国人雇用のご苦労などを共有できるような場作りにより、企業同士も学び合えるような機会を増やしていきたいと考えています。(荒木)

今後も引き続き、受講された方々が工場長や現場のリーダーとして、より一層ご活躍いただけるような実践的で意味のある研修をつくっていきたいと考えています。また、研修を通じて参加企業同士のつながりが生まれ、情報交換や相互支援の輪が広がっていくことも目指しています。研修が、個人の成長だけでなく、企業の発展にもつながるよう、今後も取り組んでまいります。(佐賀)

シンチャオ!よく来てくれました。

三元ラセン管工業株式会社へ訪問の様子

客観的な目線で本研修の人気プログラム「企業訪問」に同行してみました!

PREXの広報担当 福岡です。

PREXの独自研修である「ベトナム人リーダー育成研修」のプログラムには、数社の企業訪問が組み込まれています。テーマに沿った協力企業のご担当者生の声を聞くことができるため、研修参加者からの評価が高いプログラムの1つになっています。

今回は研修担当者ではない総務部の私が、実際に1社企業訪問に同行し、その内容や雰囲気を紹介します。この日は午前中、研修参加者はPREX会議室で「技術と技能の伝承」というテーマの講義を受け、午後から三元ラセン管工業株式会社(以下、三元ラセン管工業)へ企業訪問をする1日でした。お昼過ぎにPREXを出発し、研修参加者みんなで電車に乗って企業訪問先へ。到着するとまず、三元ラセン管工業の高嶋 博 代表取締役会長に「人材育成、従業員満足」というテーマでご講義いただきました。高嶋会長の「シンチャオ」というベトナム語の挨拶で始まり、公平な処遇、正しい評価、資格手当、そして社員が取得した資格証を飾るスペースを社内に設ける等、社員をやる気にさせる「人材育成」について紹介していただきました。

その後は、製品サンプルを見せていただき、工場内を見学させていただきました。社員の皆様も、温かく研修参加者を迎え入れていただきました。講義の中で紹介された「資格証」を飾っているスペースや製品の製造工程等をご説明いただき、研修参加者が興味津々で説明を聞いている様子うかがえました。

最後は、前日と当日の午前中に受講した講義内容と今回の企業訪問で学んだ点について振り返りをしました。2つのグループに分かれて、それぞれの学んだ点や印象に残っている点を紙に書き出し発表をしました。みんなで振り返りをすることで、それぞれの学びを共有し、また新たな学びに繋がる良い時間だと思いました。振り返りを終え、17時頃この日のプログラムは終了となりました。

行き帰りの道中は、数日研修を共にしていることもあり、研修参加者同士とても仲が良さそうに話しているのが印象的でした。このように社外で横の繋がりができることも、この研修の魅力の1つだと感じました。

(総務部 福岡)



株式会社山田製作所へ訪問の様子

未来へのポジティブチェンジを。

写真:「養蜂家育成プロジェクト」の様子

デヤン氏

訪日研修での学びを生かし北マケドニアで「養蜂家育成プロジェクト」

北マケドニアのデヤン氏は、私が2011年に担当した「JICA中小企業振興のための金融・技術支援(A)研修」の参加者です。デヤン氏が帰国した後、たまたまお互いをSNS上で発見し、現在に至るまで交流を続けてきました。13年たった今、彼は国際NGOのプロジェクトマネージャーとしてマケドニアの中でも経済的にあまり発展していない地域を対象に「未来へのポジティブチェンジ・北マケドニアにおける女性養蜂家プロジェクト(3年間実施)」を運営しています。オンラインでお聞かせいただいたお話を紹介します。

北マケドニアのデヤンです。自分が参加した研修では理論的な講義だけでなく、多くの現場に訪問することができ、理論と現場の両方から学ぶことができたことが、非常に有益でした。

また、二つ目の学びとしては課題解決に取り組むとき、行政やアカデミア、関係機関などがお互いの役割を調整し協業する仕組みがあるということを知れたことです。これは、日本では当たり前のことかもしれませんが、マケドニアでは必ずしもすべての機関がうまく協業できているわけではありません。今、自分が担当している「養蜂家育成プロジェクト」では日本でのこの二つの学びを生かして、参加者が理論とともに養蜂の技術を実際に見て、かつ実践もできる内容にしています。

マケドニアはドナーからの支援が多く、本当にたくさんのプロジェクトが実施されています。中には、企画段階で現地の状況にそぐわないプロジェクトが出てきてしまうこともあり、これはやむを得ないことかもしれません。自分のプロジェクトはそんなことがないように、支援する場所を選ぶ時も実際に現地に足を運んで決めました。また理論と実践が必ず同時に学べる内容にしています。日本での研修を通じて、学んだ知識をもとに自分で実践していくことの大切さを強く感じたのでそれを存分に生かした内容としています。また、日本の企業振興の考え方と方法は、今の仕事にフルに生かすことができています。このプロジェクトで養蜂の技術を学んだ人たちが質の良いはちみつを生産し、地域に貢献できるようになってほしいと思います。

研修では、10歳から興味があった「日本」という国に行くことができ企業振興という専門テーマについて学ぶことができたことで自分は貴重な知識と体験を得ることができました。それ以上に人間として成長することができたと思っています。この事はどんな人の前でも胸を張り自信をもって言うことができます。これも研修員として応募者の中から私を選んでくれたJICA、研修を実施してくれたPREX、そしていろいろな所で学ばせてくれた日本のおかげだと感謝しています。これからもこの学びを忘れず、人の手助けとなるよう自分を向上させていきたいです。

10歳の時に「サムライ」、「ニンジャ」にあこがれた少年が大きく成長し、今では仕事の傍ら両国の学生の交流のお手伝いもしているとか。世界の中で今まで研修に参加した研修員は時間が経ち、どういった毎日を送られているのでしょうか。マケドニアでは今も一人の大きな志を持った親日家が活躍を続けています。(国際交流部 関野)



大事なのは一致点を見つけること。

写真：2024年10月実施の訪日研修の参加者と。写真左から5番目が明路氏。

4年にわたるPREXでの経験が、今も私の中で生きています。

ダイキン工業株式会社の明路（めいじ）です。私は2016年7月から2020年6月までの4年間、民間企業からの出向職員としてPREXに在籍していました。この4年間で様々な業務を担当し、得難い経験を数多く積むことができました。今回、このように振り返る機会をいただけたので、PREXで学んだことを改めて整理してみたいと思います。

現在、私はダイキン工業株式会社の研修部で海外グループ会社の支援業務を担当しています。研修に関連する業務ですので、PREXでの経験がとても役に立っています。

例えば、海外の社員を日本に招き集合研修を行う際、PREXの訪日研修の運営ノウハウを参考にしています。また、海外グループ会社が現地の公的機関と連携して進める業務においても、「ベトナムドンナイ省ものづくり人材育成事業」に携わったことで連携の状況をスムーズに理解することができました。そして何よりも、異文化の人々と接する時の心の持ち方は、PREXで学んだ重要な点の一つです。互いに文化的背景が異なることを理解したうえで、話しあい、理解を深め、一致点を見つけていく。このプロセスは、PREXで何度も経験させていただきました。

社会のニュースの見方も変わりました。JICAコラボデスクを担当したことで、ODA（政府開発援助）などの長期的な活動が日本の存在感を支えていることや、日本の中小企業の技術力とチャレンジ精神を学びました。その結果、ODAの記事やニュースの背景にある多くの人々の努力を想像するようになりました。また、アジアだけでなく、ウクライナ、旧ユーゴスラビア地域、アフリカなど、世界各国の研修員と出会ったことで、報道される事象の捉え方も変わりました。ただ、昨今は悲しいニュースが多いことが残念でなりません。

PREXは公益財団法人としての強みを活かしていると考えています。例えば、「ベトナム人社員向け人材育成事業」。この事業は、日本の中小企業と協力して実施され、参加者の成長だけでなく、日本人と日本に住む外国人の相互理解を進めていて、非常に価値のある活動だと思います。

研修員一人ひとりと向き合い、互いに学び合うことを通じて国際貢献を進めるPREXの職員の皆さん。この地道で丁寧な活動に、今も尊敬の念を持ち続けています。

（ダイキン工業株式会社 研修部 担当課長 明路 達紀 氏）

NEWS & TOPICS

「どうも考え方が合わない」、「なぜかうまくやってけない」・・・、日本人同士であっても新しい職場では難しいものですね。しかも言葉・習慣・文化が違うベトナムからやってきた人たち。PREXは、日本の企業で働くベトナム人社員が輝いて働けるよう12回にわたってリーダー研修を企画・実施してきました。これまでの研修参加者、所属企業の声に耳を傾け、毎年パワーアップしています。今号ではそんなPREXの研修にける想いを感じていただければ幸いです。お読みになられた皆様のご意見ご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

カザフスタン日本センター所長来局

8月28日、カザフスタン日本センター所長のジャーナル・オラズガリエヴァ氏がPREXに来局されました。ジャーナル所長は、PREXがJICAより委託を受けて実施した「2008年JICA日本センタービジネス実務研修」に参加されました。17年も前のことですが、研修プログラムが充実しており、楽しく学ばれたことから、日本とカザフスタンの関係をより深くつなぎたいと感じたとのことでした。お言葉通り、日本センターの所長となられて、日本とカザフスタンの架け橋となる業務に尽力されています。

カザフスタン日本センターでは、日本的経営やカイゼンといったビジネス研修や、日本語の研修を行っています。日本に関心を示す人が増え、日本語研修受講者は年間450人くらいいらっしゃるとのことでした。ビジネス研修についてはカイゼンなどのテーマが人気で、有料での実施にもかかわらず、参加者が多いそうです。

(国際交流部 酒井)



左からPREX国際交流部長 酒井、カザフスタン日本センター所長ジャーナル・オラズガリエヴァ氏、PREX専務理事 陣内、ご引率いただいたJICA経済開発部 水野氏、大阪・関西万博のカザフスタン館で勤務されているスルタン氏

PREX×JICA関西 「JICA留学生と万博参画企業 との共創」を実施

独立行政法人 国際協力機構(JICA)と共催で「JICA留学生と万博参画企業との共創」を実施中です。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする2025年大阪・関西万博「リボンチャレンジ」に参画する自治体や経済団体を通じて出展参加する大阪の中小企業の技術や魅力について、JICA留学生(※)が各企業関係者との交流を通じて得た学びを国内外へ発信、また企業や万博への視察から得た学びや持続可能な社会開発に関する気づきについて関係者と共有し、未来社会を「共創」することを目的としています。

(※)JICA留学生とは、1年以上滞在中、日本の大学の修士課程や博士課程で学ぶ研修員。途上国の行政官・研究者、民間企業出身者などで、関西2府4県の15の大学院で約300名が学んでいます。

実施期間:

2025年8月5日～10月10日のうち
5日間

詳細はこちら→



PREXウェブサイト リニューアル

新ウェブサイトでは、PREXの活動内容をわかりやすく見ることができます。「PREXとは?」を端的にまとめた「3分でわかるPREX」ページも新設しました。ぜひご覧ください。

PREX新ウェブサイトはこちら→



新たなメンバーが加わりました。



左から、藤井 康喜(国際交流部 担当部長、5月26日付、東洋紡株式会社から出向)、陣内 信(専務理事、5月1日付、レンゴー株式会社から出向、6月30日付、専務理事就任)、川治 陽(国際交流部 担当部長、4月1日付、サントリーホールディングス株式会社から出向)です。よろしくお願ひします!



「3分でわかるPREX」はこちら→



PREX NOW第281号(2025年10月発行)

編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:陣内 信

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850

ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>

E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

企画制作:ユナイテッド・トゥモロー